

# 月刊 やちまなこ

2012.3.15 発行

No. 172

## 3 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

啓蟄が過ぎ、湖を覆っていた氷も徐々に解け始め、オオハクチョウやヒシクイが水辺でのんびりと羽を休めている。雪の残る林からアカゲラのドラミングが聞こえ、野鳥たちのさえずりも一層賑やかになってきた。

降る雪にも雨の匂いを感じるようになり、植物たちも眠りから覚める季節でもある。



## コッタロ川と湿原のほとりから

### 141 3月のコッタロ湿原便り

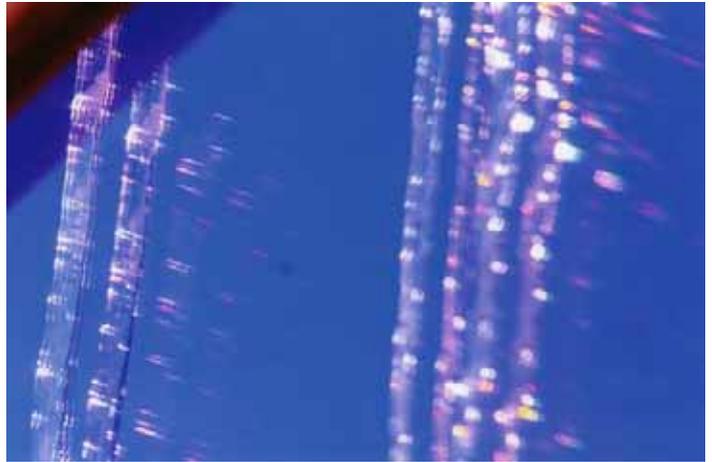
コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

野鳥のさえずりと共に木の根開きも始まり、そこはかたく春めいてまいりました。稀なる大雪で100cmを有に越えた降雪量はここに来て半減し、40cm余の屋根の積雪もゆるゆるととけ出し、軒端を下る滴の束が寒朝の光の中でダイヤモンド氷柱と化す瞬間の美景と云ったら他に例えようもありません。

ところで、いち早く『恋の季節』を迎える丹頂等は、3つのカップルが例年通りの場所で営巣準備に余念がなく、わずか2KM四方のせまい湿原内は交尾の雄叫びで賑やかです。求愛ダンスも見なれた光景とは云え、崇高を威厳とを顔面に宿した彼等は、翼の広げ方一つにも、或いはその長過ぎる首の曲げ方一つにも特に注意を払い、見事な調和と入念の工夫を凝らしているのがわかり、それらが技巧的では微塵もなく、自然であるのがわかるでしょう。

一方、滑稽な面ももち合わせていて、うるさ方の地廻りカラスの面々がエサの魚をおねだりしてツル池のフチから「おじぎ」を重ね乍ら“ガオウ！ガオウ！……”とカラス語で訴えるのに応じて、とうとう一尾与えてしまうのを見るにつけ、又、キツネのキャンシーのうろつきには、全身からオーラを発しつつ目力で阻止し、決して騒がず寄せつけないすごさを見るにつけ、不思議な自然（野生）のテレパシーを感じずにいられません。

さて、雪解けは進みつつあるものの未だ真白き褥に包まれた大地では、クロカンスキーもいよいよ終盤に入って尚盛んで本日（10日）ついに100日目を記録しました。滑り心地の好い氷点下一桁台の早朝を狙って山へとくり出せば気分もアップ！アルプスの少女ならぬ老女と云ったところです。



アトリは秋になるとユーラシア大陸北部からやってくる鳥です。群でいることから「集鳥(あつとり)」が変化してアトリになったといわれています。あるこっと周辺では本州に南下していたものが



北上してくる春に観察されていますが、年によって飛来の当たり外れがあります。繁殖地へ向かう途中、栄養補給のために種子を求めて移動するので、特徴を覚えて探してみてください。スズメより少し大きくて、オレンジ、黒、白色の模様が目立つ絶壁頭の鳥です。写真は頭部が黒の夏羽へ変身途中の雄です。雌の頭部は灰褐色で胸や脇も雄より淡い色合いです。ここ数年ハズレ年が続いていますが、はたして今春は釧路湿原に立ち寄ってくれるのでしょうか。

残雪のフィールドを散策。

自然ふれあい行事「温泉フィールドウォッチング」を3日、シラルトロ湖と茅沼蝶の森周辺で開催しました。参加者はスノーシューを履いたあと、早速シラルトロ湖を散策すると雪の上にはたくさんのエゾシカの足跡があったり、湧水の流れるところでは散乱した貝殻が見られ、その周りにはカラスが食べたと思われる足跡がありました。湖から蝶の森へ向かうと、途中には大きな落とし穴のようなものがあり、昭和の初めころの炭窯の跡でした。当時はこの辺にも太い木があったようで、伐採された木の古株が一部残っていました。また近くには浅く落ち込んだ場所もあり、縄文時代の竪穴住居跡のようでした。釧路湿原の自然の様子や当時の生活していた場所を観察しながら、傍を走るSL冬の湿原号を見送り、行事終了後には憩の家の温泉に浸かって汗を流しました。



つぼっちの塘路周辺うろうろ日記

Vol.61「塘路市街の住民？」

今年の冬は、塘路でも多くの雪が降りました。その影響の為、食べ物を探しているのか塘路市街地でよくエゾシカを見かけます。

その多くはメスジカですが、先日珍しく道路の真ん中を闊歩する立派なおスジカを見かけました。メスジカに比べ黒っぽく見えるその体躯は当たり前ですが大きい！。遠い距離からおスジカを見る事は良くあるのですが、道路上で間近に出会うと、堂々たるその姿に腰が引けてしまいました。

一方で、塘路市街でモモンガを見たというお話を近所の方に聞きました。そういう出会いならいつでも歓迎なのですが。

坪岡 始 (標茶町郷土館学芸員)



# 4月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## 春のバードウォッチング

【日時】4/22(日) 10:00~12:00

【定員・参加料】15名、無料

【場所】シラルトロ湖・蝶の森周辺

【持ち物】あれば双眼鏡。コース状況によって長靴。

申し込み 問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

## 早春の湿原ハイク 【日時】4/15(日) 10:00~12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(3/4)フクジュソウの芽 (3/5)アズキナシの実と冬芽・キタコブシの冬芽・ヤナギの絹毛 (3/8)エゾシカが食べたエゾノミズタデの茎

【鳥】(2/17)カワアイサ・ホオジロガモ・オオハクチョウ・マガモ (2/19)タンチョウ・オオワシ・オジロワシ。(ミヤマ)カケス (2/28)ノスリ・ワタリガラス (3/2)アカゲラのドラミング (3/4)湖上に佇むアオサギの群れ (3/10) 空高く東へ向かうタンチョウの群れ・ツグミ・コムクドリ (3/11)キンクロハジロ (3/13)ヒシクイ50羽。(シマ)エナガ・ウソ

【その他】(3/5)キタキツネ (3/10)エゾシカの死骸

コッタロ展望台のトイレは凍結防止のため11/1~4/30まで閉鎖しています。

今年は3月半ばというのにまだ雪深く、雪解けが待ち遠しいです。しかし野鳥の世界も移動の季節となり、塘路湖にはいつもの春の風景に欠かせない役者のアオサギ(夏鳥)やヒシクイやオオハクチョウ(冬鳥)の姿が見られるようになりました。湖沼の氷が解けだすとカモやワシも集まる野鳥観察にオススメの時期です。

日中は気温が上がり、雪解け水が道路に流れますが、夕方には気温が下がり、路面もアイスバーンになります。車の運転には注意してください。

日出・日入時間 3/15(5:35,17:29)・3/31(5:06,17:48)・4/14(4:42,18:04)



また来年！ワカサギ釣りが終了 (塘路湖3/11)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:[emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料